

チシヤノキ

梅雨の時期、雨ばかりで憂鬱・・・ではありませんが、雨に濡って色濃くなる緑、晴れ間から差す陽光で木々の美しさを演出するのに、雨が「役買」してくれているのもまたしかり。こんなふうに緑と季節の移り変わりを楽しめるのも、自然に恵まれた環境があるからこそですね。

魚ノ川に鎮座する「仁井田のヒロハチシヤノキ」という大木。あまりに大きく、めずらしい木なので、ほう々と見上げてしまうほどです。推定樹齢700年と言われ、幹周は4.8m、樹高16mある立派な木。国の天然記念物にも指定されています。残念なことに台風で主幹が折れてしまい、現在は添え木に支えられた痛々しい姿になっているものの、その存在はたまたまやばり・・・立派な折れた主幹にある空洞内には小祠があります。別名



「乳もらいの木」として信仰されているそうで、子どもが産まれるとお参りに来る人もいるのだとか。今月も3人の赤ちゃんの誕生が記載されています。お母さんからたくさんお乳をもらって、元気にすくすくと育つてほしいものです。

ところで「乳もらいの木」の由来とは？枝を折ると中から染み出る白い木汁。それとも一つ、チシヤノキの幹を観察すればその答えが分かる、とは地元の方のお話。お天気に恵まれた休日には、魚ノ川まで「チシヤノキ」を見にドライブ。また一つ楽しみができましたね。

今月の

人 きらり

地元では「いっしょうきょうさん」と呼ばれ親しまれている郷土史家

どうやって記憶しているだろう

うと思議に思うほどくわしい。長年勉強してきたせいだろう。郷土史を勉強するには古文書が読めるにこした事はな

い。みみずが靉にとび込んで大慌てではつていったような文字

そんな字を読んでもみたいと願う人のために、『古文書を読む会』を

つくり20年前から講習会を開いてい



講演する林さん

る。読めだしたら楽しいだろう。『私にも読めるようになるだろうか』なるなる。ちょっとしたコツがあるけれど」

そして『くぼかわの歴史を探る会』という勉強会もある。本人発案である。窪川に住んでい



はやし 林 見 かつ まさ 一将さん

ながら窪川の歴史を知らない

よりは知っていたという発想から、町立図書館の2階で月

1回のペースで開かれていた。5月のテーマは「仁井田5人衆

各地に山城を築く」であった。又、ボランティアガイド「呼び

坂友の会」の世話役でもあり観光協会に事務所を置き十数

人のメンバーで活躍している。窪川の史跡や文化財、観光につ

いてボランティアで案内をして

いる。そんなこんなで忙しい林さ

ん、さらに自前の史料館を見学に来るお客さんにも忙しく

対応している。土佐の土蔵風の建物で林家の先祖が築城した

城、『古溪城』と銘を冠している。武器甲冑、陶器、民具、絵

画等々のお宝が毅然と並べられていて、除湿器を休むことなく稼働させ資料は大切に保管さ



史料館「古溪城」